

～JA福井県産大豆の単収アップを目指して！～

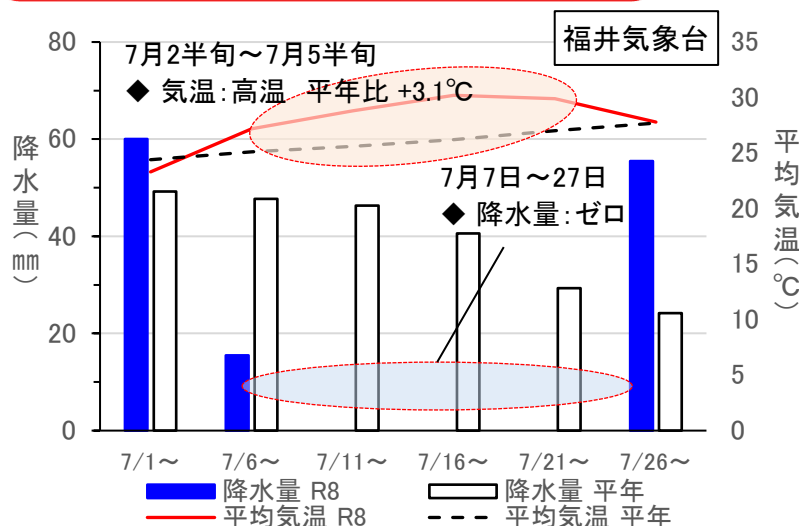
FUKUI DAIZU 情報

福大豆

No.4

7月末に降雨がありましたが、高温の日が続いています。圃場の状態を確認し、適切な畝間かん水を行い、高温による土壌の乾燥に対応しましょう。また、カメムシの発生も多く確認されているため、適期防除に努めましょう。猛暑日が続いていますが、体調管理に気を付けて、大豆の栽培管理を行いましょう。

1. 気象と生育状況について



【気象庁の向こう2週間予報】

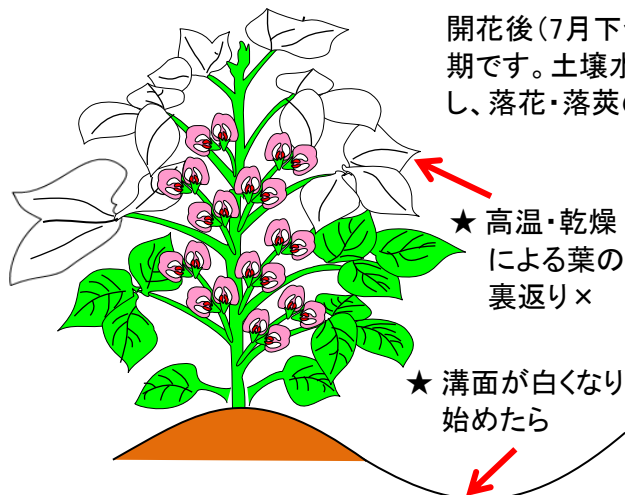
平年より高温～かなり高温の日が多いと予測されています。



おおい町(6/15播種)
2回目培土後(7/30)

2. 畝間かん水(乾燥害対策)について

開花後(7月下旬～9月上旬)は着莢・莢伸長・子実肥大のために最も水が必要な時期です。土壌水分を維持するために暗渠栓を閉じ、状況に応じた畝間かん水を実施し、落花・落莢の軽減を図りましょう。



畝間かん水の目安

- 無降雨期間が7日程度続き、溝面が白くなり始めた頃
- 葉が裏返る前

畝間かん水のポイント

- 短時間で圃場に入水し、速やかに排水する。速やかに排水しないと根を痛め、減収する。
- 排水溝・暗渠の栓の開閉の実施。
畝間かん水時は閉める→畝間かん水後は開けて排水
→排水後は土壌水分を保つため栓を閉める。

3. 病害虫防除について

莢伸長期から子実肥大期以降にかけては、紫斑病の予防と害虫防除を行うため、殺菌殺虫剤(混合剤)を散布する。また、防除薬剤が莢に充分付着するように丁寧に散布しましょう。

生育ステージ
(6月上中旬播種)

莢伸長期
(8月上中旬ごろ)

子実肥大期
(8月中下旬以降)

防除

紫斑病(開花後20～30日)

➡ 2回実施する場合は剤を変える

カメムシ(8月中下旬、9月上中旬)

➡ 多発時は8月末頃に+1回追加

フタスジヒメハムシ(8月下旬)、チョウ目等

➡ 発生状況を見て、カメムシと併せる